

# 日本水仙

## \*\* 解説 \*\*

NPO法人  
ネイチャー・アソシエーション  
藤平 明

1



4



1

4～6枚の葉から花茎を伸ばす。葉と茎は、同じくらいの長さ。繁殖地の条件にもよるが、高さは、20～40cm。  
稀に50cmくらいのもも見られる。

ぶつえんぼう  
茎の先に大型の膜質仏炎苞が残っている。

2

たにくしつ  
葉は、多肉質で、ぶ厚く4～5枚。茎は、中空。

3

りんけい  
地中に黒い外皮に包まれた卵球形で耐寒性を有する鱗形がある。(園芸で球根とよばれるものも多くは、鱗形である。)鱗形とは茎の基部に多肉化した多数の葉が重なってつき、球形や卵形になったもので、栄養増殖お行う。繁殖は、鱗茎の分裂によって行われる。  
球根にはリニコンとセキサニンなどのアルカロイドを含む。

2



5



4

葉には芳香があり、子房の下において屈折し、横向きに5～8個、多いものでは10個の花をつける個体もある。  
花の向きは、写真のように全部が同じ方向を向いたものや、向きがばらばらの花もある。  
花被片は内外3枚ずつ6枚で、下部が合着して筒状になる。

内側 花弁 外側 がくへん 萼片

5

のど 喉の部分に黄色い杯形(ラッパ状)の副花冠がある。水仙の特徴  
さかずき 内側に1本の雌しべと花被筒につく6本の雄しべがある。雄しべは、花被筒の上部に3個、下部副花冠に3個の2段につく。雌しべ・おしべそれぞれの下部は副花冠に癒着している。  
ふく かかん 雌しべの長さは、約2cm、下部の子房へと続く。

3



6



6

子房は、3室からなり、三角形。花が枯れても種子は、成熟していない。  
繁殖は、鱗茎の分裂により子体を生ずることによる。

7

雌しべが子房下位であることからユリ科と区別できる。